だれもわかってくれない。

みんなわかってくれない。

みんな親切そうなフリしていざとなったら知らんぷり。みんな他人。
確かに血もつながっていないのはわかってるけど、ちょっとでもつながりがほしい。

でも自分のことをうちあけられるやつなんていない。だからひとりぼっち。
人ごみの中にいてもずっと孤独。

むしろ人の中にいればいるほど孤独感が増していく。だからひきこもる。
あまりの孤独に死んでみようかなと思ったこともあるけど、面倒臭くてやめた。

死ぬこともできず、世の中になじむこともできず、発砲ふさがりの毎日。

いつものように通勤して座席に座っていると、前におばあさんがいた。
ふっと何かを感じ、席を譲った。いつもは譲らない特等席。

おばあさんは遠慮しながらも座った。わたしは立って電車に揺られていると、目の前に紙切れが。「お前にやろう。礼じゃ」汚い紙切れを渡されてどうしようか考えていると、「ひとつだけ願いがかなうチケットじゃ。わしはもう叶った。だから次はお前じゃ」「何を叶えたんや？」「若者に席を譲ってもろうた」「はあ！？」それきり俯いて黙ってしまった。

いまさら返すことも出来ず、汚い紙切れ、いやチケットをパンツのポケットに入れた。

結局、仕事中はその事ばかり考えていた。単純に仕事に身が入らなかっただけなのだが。
なにかひとつだけ願いを叶える。話としては魅力的だ。試しに使ってみようかと思ったが、それで終わってしまう。いつそ願いを増やすっていう願いはどうだろうかと願ったが変化はなかった。無理らしい。

わたしは何時の間にか段々このチケットを信じ始めていて、あれやこれやと願いを空想し始めた。

大金持ちになったらどうだろうか？お金で何でもできる。キレイで大きな家にも住めるし、美味しいものも食べ放題だ。ファストフードとはおさらはばだ。でもお金を持ってると命を狙われるかもしれない。ボディガードやとって、防弾車にのって…。案外窮屈な生活になりそうだ。

じゃあ、不老不死。ずっとわかいまま遊びたおせるなあ。でも万が一誰かに拷問されたら死なないから、最悪だなあ。

スーパーマンはどうだ？パワーもあるし、空も飛べる。正義の味方も悪くない。でも、敵がいないなあ。これじゃ単なる力持ちのにいちゃんになってしまう。

おれの貧相な想像力じゃ対していいことないなあ。せっかく何でもかなうチケット手に入れたのに、使い方が分からないとは。三流大学の知恵はこんなもんか。

あーなんか良い事ないかなあ。

会社も終わり、特に妙案もなく家路についていた。
前に可愛いチワワが散歩していた。あれ？リードがないぞ。道路を横断し始めた！！横から車が猛スピードで走ってくる！

「危ない！」とっさに僕は飛び出していた。キキキーーーー！ドンッ！

遠くから声が聞こえる。「おーい、誰か来てくれー！人が犬を守って車にはねられた！救急車だー！」

ワンワン！元気な声が聞こえる。ああ、助かったんだ。良かった。

みんなは分かってはくれない。

でも確かに私には良い事だった。良かったんだ。